

平成24年2月26日：日の出山(町田一心会アーカイブスより)



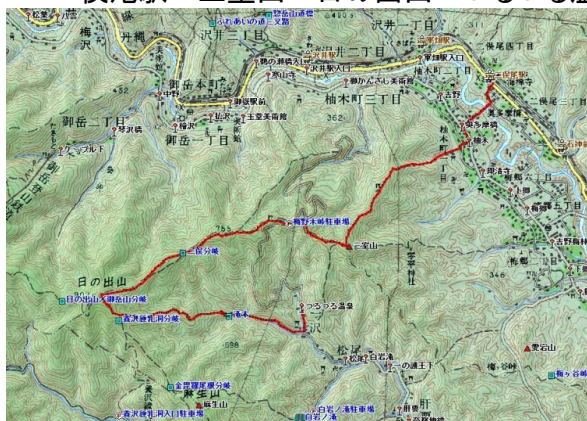
この頃はブルーシートが主流、シートと言えばブルーシートあたりまででした



前回 20km
日向和田駅→三室山→日の出山→金比羅尾根



今回 10km
二俣尾駅→三室山→日の出山→つつる温



平成30年6月17日

コースは愛宕神社、日の出山からつるつる温泉

愛宕と言えば歌いだします ♪ アタゴのあたろう・・・右から4番目、左端の人



人の恩、自らの努力精進は忘れてもけっして忘れない神頼み



ここから日の出山まで前回と同じ馴染みのコース(馴染み:郷愁をさそう言葉です)



小雨、モヤの松並木登山道は幻想的でもあります



当時のメンバーも一人欠け、一人いなくなり、次は誰かなとなりました



ランチはつるつる温泉つるつる御膳前なので控え目に、唐揚げ(4個入り)弁当



入ってつるつる出てほかほか、生涯青春の湯 ひので三ッ沢つるつる温泉

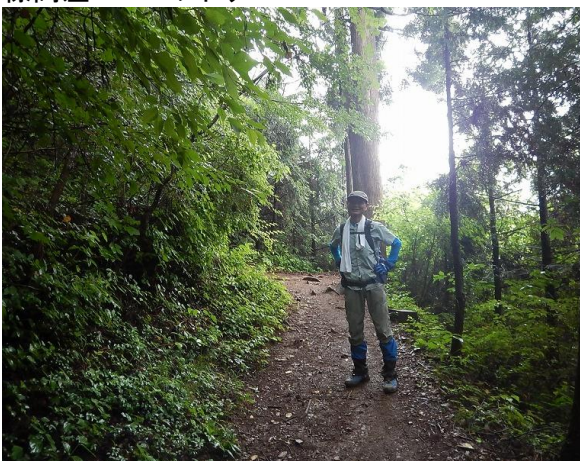


マウンテンバイクのメッカ

この曲がり歪みはこの人達の性格と同じ



新緑真っ只中の標高差600mの下り



雨が上がり霧がなくなって視界が開けてきた



お顔つるつる、あたまテカテカ人よんで『ツルカオ テカシ』とその一座でございます



父の日生一杯プレゼント

つるつる温泉から武蔵五日市駅までのレトロバス



深イイ話

日の出山の由来は御岳山から見て日の出る方角にあったことから名づけられたと言われている。山は修行の場であり心身清めの場でもあった(六根清浄 1根不浄)。山はこの日の出山、立山、黒姫山のように『〇〇やま』と呼ぶものと、高尾山、富士山、御岳山と『〇〇さん』とよぶものに大別される。この違いは信仰によるものとされている。仰ぎ信ぜられるものはさん、深谷さんもそのようである。寺も神社と大きく語源の違いがあって寺は『訓よみ』、神社は『音読み』になる。なぜそうなるのかここでは説明しきれない(本当はよく知らない)ので割愛するが山歩きしていると歴史、語源の深さを知るあまり、世のくだらないだじゃれ、詰まってもつまらない話にほどほど飽き飽きしてくる。一言で言うなら『いみじうこそものぐるほしけれ』である。正しくない単語が先走っているきらいがある。